

詩編 第15章 1節

「主よ。だれが、あなたの幕屋に宿るのでしょうか。だれが、あなたの聖なる山に住むのでしょうか。」

主よ、となんの疑いもなく呼ぶことが出来る。主よ、と御名を呼ぶ時、紛れもなく叫ぶ者の声を聞いてくださる。聞いておられる主が聞こえるところに、聞いてくださる手応えを感じるにおられる。聞いてくださる主に問いかける。問う者の所有者であり、支配者である王なる主に問いを投げかける。畏れおおいことである。しかし、あなたと呼び問う。

主よ、の呼び掛けより、さらに一段と近くにおられることを感じて呼ぶ。主と呼び、さらに近づいて呼ぶ時、そこに主がおられる思いで、あなたの、と問いかける。問う私がどうしてもお聞きしたいことがある。お答えをいただかなくてはならない思いがこもった、あなたの、が繰り返される。

主よ、と呼ぶこと自体が後に引けない声である。そして、さらに、あなたの、と直接的な問いに至っては背水の陣である。ここまで、全存在を賭けて呼べるお方がいるのは至高の幸いである。呼び、叫ぶ者の声を退けず、無視せず、軽んじない。主よ、と呼ぶ者に、あなたの、と問う者に主がご自身の身を乗り出して、その身を呈してお応えくださる。

2022年10月10日